

今年度の実施を踏まえた来年の取り組みについて

2024年度実施項目

標準化とアカデミアとの連携に関する検討会

学会において標準化を発信する機会の設置、アカデミア及び企業に対する啓発

教育という側面から標準化を発信及び社会人を中心とした方々に対し情報提供ができるよう調査、検討及び実証

- 【筑波大・長岡技大パイロットプログラム】
- 大学（標準関係講座実施）の調査・ヒアリング

2024年度の実施→課題

課題

- 若手アカデミアの標準化への関心が低い
- 単独の学会では取り組みが困難
- 先端分野の標準化情報が不足（具体的な標準化の対象技術とアカデミアの研究との関係性等）
- 論文等の発表の場がない・評価される場もない。
- 学会間の連携が不足
- 関係工業会との関係整理
- 先端分野における標準化活動の基盤となるデータが不足・未整理

課題（学部・リカレント教育共通）

- シラバス作成能力
- 講師人数（一つの大学ですべての講師をそろえること、一人の講師で講座を実施することは困難）
- 講師の専門知識と一般的な標準化の知識とのリンケージ
- テキストの不足（技術の進捗、トレンドに対応した）
- 若年層からの教育（標準化の重要性を知りえる機会）が必要

課題（リカレント教育）

- 産業分野による標準化の捉え方の差異（情報・通信・素材・組立・部品等）への対応
- 受講する方々の標準化の知識の程度の差異への対応

2025年度の取り組みについて

引き続き実施

- 引き続き関係学会等に対する人材育成への取り組みを継続
- 学会への国際標準化情報提供の質・量の強化・拡充、学会における担当窓口の設定の検討
- 学会のセミナー、委員会等を標準化に関する研究成果発表の場として提供することについての検討
- 学会における学術誌が査読付きの標準化関係論文の発表の場となりうることについての検討
- アカデミアの標準化活動の評価を継続する仕組みについての検討

- 大学における講座設定ガイドライン(高等教育論に沿った、海外の例も踏まえて)の作成
- 講師候補の方々への「当該専門分野と標準化との関係性、一般的な標準化に関する情報提供」の場の設定等
- 例えば高専における講義促進

- 標準化の促進がイノベーションにつながることを踏まえて、産業界、大学等の共同によって、講座の内容の開発、実施ができるような仕組みを検討